

プリセプターシップに対する当病棟看護婦の意識

—インタビュー調査より

6階東病棟

○仁井田恵子 中村 美保 近江 優子 廣田 由紀
島内 成香 西尾 有希 有瀬 和美

キーワード：プリセプターシップ・プリセプター・プリセプティ

I. はじめに

プリセプターシップは医療が高度化し基礎教育が変化するなかで、また医療サービスが量から質の時代へと変化する現在必要不可欠なシステムである。6階東病棟では4月からプリセプターシップを導入している。導入にあたってはプリセプティの成長と発達を援助し、プリセプター支援のために看護婦全員がプリセプターシップに対する意識の統一化をはかる必要があると考え、プリセプター研修への参加、プリセプターシップについての伝達講習及び勉強会を行った。しかし現状として、プリセプター・プリセプティ間では、それぞれの役割をはたせているが、他の看護婦は指導をプリセプターに任せきりにしている。またプリセプティの教育の現状把握ができていないために関われず、プリセプターシップへの参加は十分ではないと思われた。この事から当病棟のプリセプター・プリセプティ以外の看護婦のプリセプターシップに対する意識を明らかにすることで、病棟全体でのバックアップ体制をつくるための示唆を得られると考えた。

II. 研究目的

当病棟のプリセプター・プリセプティ以外の看護婦が、プリセプターシップについてどのように考えているのかを明らかにする。

III. 研究方法

研究デザイン：質的研究

対象数・特質：6階東病棟の看護婦 12名

期間：平成13年7月4日～平成13年8月22日

データ収集方法：半構成的質問紙に基づき、6階東病棟の看護婦12名に面接調査する。会話の内容は対象者の承諾を得て録音する。

データ分析方法：面接内容を逐語的に記述し、プリセプターシップに対する意識に関する記述部分を抽出しカテゴリー化する。

IV. 倫理的配慮

研究目的以外には使用しない。

V. 結果

プリセプターシップに対する意識は、5つのカテゴリーに分類できた。

『当病棟でのプリセプターシップの現状』は、プリセプターシップの導入に対する「利点」として、同じ勤務帯で指導が受けられる、頼りにしている等考えており、「負担」としてはプリセプターに情報が入らない、プリセプターの負担が多いと考えていた。

『プリセプターのとらえ方』については、プリセプターが「マンツーマン」で、業務の事から社会人としての知識・常識という部分までひと通りプリセプティに教える「指導者・模範者」と思われていた。また、「精神的な援助」もプリセプターが行っているため、プリセプターは「大変」であると考え、『当病棟でのプリセプターシップの現状』と重なる部分があった。

『スタッフの関わり方』は、本来は周囲のスタッフがプリセプター・プリセプティ両者を支えていくものだが、プリセプターに任せきりで、周囲のスタッフはプリセプティの現状把握が出来ていない状態であり、スタッフからプリセプター・プリセプティへの関わりも不十分であった。

『周囲のスタッフの役割』は、プリセプター・プリセプティ両者に対し、「第三者的な存在」であるべきと想っていた。プリセプティに対しては気になった事はその場で指導をして協力できている。しかしプリセプターに対しては、プリセプティに指導した内容の情報交換や他のプリセプターの支援が出来ていない事があり、協力的でなかった。

『理想とするプリセプターシップ』については、能率的な業務の為にプリセプティの成長を把握、プリセプティ・スタッフ・プリセプター・プリセプターエイドの存在が理想、病棟全体で関わっていくことが必要と考えている事が明らかになった。(表1)

表1 プリセプターシップに対する意識

大カテゴリー	中カテゴリー	ローデータ
当病棟でのプリセプターシップの現状	利点	なるべく同じ勤務をする事で指導や精神的なフォローが行える / プリセプターが気にかけている 無関心でない / 同じ勤務帯で指導が受けられる / プリセプターも基本を勉強して指導にあたる 頼りにしている / 私をみていてくれているという安心感がある / 一年目は言えば関わってくれる
	負担	プリセプターのフォロー制度がないため負担が多い / プリセプターに情報が入らない
プリセプターのとらえ方	マンツーマン	指導、教育 / その人の成長を持ち上げる / バックアップ / 一対一で教え合う 業務のことから社会人の知識とか常識の部分までを教える
	新人教育	看護の知識や技術以外の社会への取組み方 / 病棟全体で新人教育
	精神的援助	学生と社会人とのギャップを和らげる / 技術面は他のスタッフも教えられるが、精神的フォローはプリセプター
	大変	お互いに重荷
	指導者	模範者、方向づけ / 専属の先輩看護婦が指導していく
スタッフの関わり方	マニュアル	完全に出来上がるまでのプロセス
	把握不足	スタッフがプリセプターに任せきり / 他のスタッフがプリセプティを把握出来ていない 質問をしないプリセプティには働きかけがない
周囲のスタッフの役割	協力体制	プリセプターがプリセプティにどんな指導をしているのか気に留めながら指導している プリセプターに自分がどう関わったか、報告する / 個性に合わせた対応が必要 病棟の業務の流れのなかで目につくことを指導することはスタッフも同じ 指導内容が十分に報告が出来ていない
	プリセプターとの関係	プリセプティに指導した内容を伝えることが必要である プリセプターには他のスタッフからの情報が入らず非協力的である
	プリセプティとの関係	プリセプティには気になることは、その場で指導するなど協力的である プリセプターの指導状況の把握が必要であると思う
理想とするプリセプターシップ	周囲のバックアップ体制	プリセプティ・スタッフ・プリセプター・プリセプターエイドの存在が理想 / 病棟全体で関わる プリセプターは、3~4日目理想 / プリセプターの曖昧な所をエイドがフォロー 次のステップである自立に向けての働きかけが必要 気がついた事は、スタッフも指導し能率的な業務の為にプリセプティの成長を把握

VI. 考察

「プリセプターシップとは、1人のプリセプティに対し1人のプリセプターがマンツーマンで臨床での教育を担当する方法である。」¹⁾ また、「プリセプターシップの導入に関しては、プリセプターだけがプログラムに関連しているのではない。プリセプター、プリセプティ、婦長、サポーター(スタッフ)、教育委員がそれぞれに独自の機能を発揮してこそプログラムとしての意味を成すものである。これはプリセプターシップが成功するポイントでもある。」²⁾ と上泉は述べている。

当病棟ではプリセプターシップに対するスタッフの意識として、「模範者と言うのか、その相手に対してのよいお手本だったりとか方向づけ」「技術面はプログラムに添って他のスタッフも教えて行く事ができるが、精神的なフォローはプリセプターが行うもの」「プリセプターと周りのスタッフとで、プリセプティの新人教育をすること」の意見が聞かれた。現状は「プリセプティには気になった事はその場で指導する」「側にいたら見守ったりする」等プリセプティには知識や技術面、また分からない事があれば指導を行い協力的である。しかしその反面、プリセプターに対しては「ほとんどプリセプターに任せきりで、周りのスタッフが十分にプリセプティを把握出来ていない」「スタッフの指導内容が情報として入ってこなかったり、プリセプターにとっては協力的ではない」「プリセプターをフォローしていく体制がないので、プリセプターにかかる負担が大きい」という意見があった。

篠は「プリセプターシップは職場全体での取り組みでなければプリセプターだけの負担になり教育制度としての体制を作ることが出来ない」³⁾ と述べている。当病棟の取り組みとして、プリセプターシップ導入にあた

り事前に伝達講習・勉強会を行い、プリセプターシップに対する教育が行われた。スタッフからは「病棟全体で関わっていくことが必要」「他のスタッフもプリセプティがどのくらい成長しているかを把握することで、指導していく事もその内容も能率的になっていくのではないか」という意見が聞かれた。このことから、当病棟のプリセプターシップに対する認識はあるにも関わらず、実際には周囲のスタッフの役割が果たされていないと考える。篠の述べたプリセプターシップの確立が当病棟では不十分であり、今後の課題としてどのような働きかけをすれば各自が役割を果せるようになるかを考え、取り組んでいく必要がある。

VII. 結論

プリセプターシップについてスタッフは十分な認識を持っている。しかし現状は積極的な関わりが出来ていない。

引用・参考文献

- 1) 上泉和子：新人オリエンテーションとしてのプリセプターシップ再考, 看護管理, 8 (7), 531, 1998.
- 2) 上泉和子：新人オリエンテーションとしてのプリセプターシップ再考, 看護管理, 8 (7), 533, 1998.
- 3) 篠希代美：職場全体で取り組むプリセプターシップ, 看護展望, 24 (6), 42, 1999.
- 4) 永井則子：新人指導におけるプリセプターシップ, 月刊ナーシング, 20, 14 - 22, 2000.
- 5) 神崎恭子, 石本傳江：プリセプターシップにおける新人とプリセプターの意識の差, 看護展望, 24 (10), 80 - 89, 1999.
- 6) 亀井久美子, 小林由紀子：サポート体制とその実際, 看護管理, 8 (7), 516 - 521, 1998.
- 7) 翁長多代子, 川上節子：現場にあわせたプリセプターシップ, 看護展望, 24 (1), 56 - 63, 1999.